

「歴史の道百選」No.23 下仁田道志賀峠越(群馬県甘楽郡下仁田町)

概要

志賀峠越は、屋敷集落から志賀峠までの約4kmである。屋敷集落の手前100mほどの旧道には地蔵や馬頭観音などが点在している。屋敷集落の西のはずれには、蚕種の低温貯蔵で世界の絹の大衆化に貢献した荒船風穴があり「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産の1つとして世界遺産となっている。ふもとの集落、市野萱からハイキングコースにもなっている。神津牧場から1.3kmほどのところで道は2つに分かれる。直進すると香坂通り日影新道、左が志賀越の道となる。志賀越の道は神津牧場の牧草地の中を通るため、分岐部分と長野県境部分しか見ることができない。分岐部分にある馬頭観音の台石には「右は香坂左は志賀」と刻まれ道しるべも兼ねている。これらの峠道は信州米が多く関東方面へ運ばれたことから後に「米の道」とも言われている。

写真①



写真②

峠道分岐と道しるべを兼ねた馬頭観音



分岐に立つ馬頭観音と道しるべ

## 備考

神津牧場内から長野県境までの道は東日本台風の影響もあり、路面の荒れているところ、倒木、沢に架かる橋の流出等が見られる。ハイキングコースの道標は志賀越ではなく香坂峠を案内している。志賀越の道の多くが神津牧場の牧草地となっており、有刺鉄線で仕切られており入ることができないことから整備は香坂峠道の方が整備されている。県境に沿って物見山や八風山の登山道があり、神津牧場からのハイキングコースとすると良い場所にある。ただし、より安全に楽しんでいただくためには倒木の処理や橋の整備が必要と思われる。